



社会人の 大学・大学院の教育プログラムへの 情報アクセスについて

～学び直しの実施状況と現場から見た課題～

2018.02.13

乾 喜一郎

ケイコとマナブムックシリーズ編集長



発表者について

乾喜一郎

1992年リクルート入社。以来一貫して進学・就職・転職・Uターンなどキャリア領域での媒体制作に携わり、2006年、社会人を対象にキャリアチェンジ・キャリアデベロップメント目的の「学び」を提案する『ケイコとマナブムックシリーズ』編集長に就任。

さまざまな職種・学び方にわたり、これまで取り上げてきたライフヒストリーは数千例に及ぶ。

※これまでの主な担当媒体

◇社会人大学・大学院関連・・・『社会人&学生のための大学・大学院選び』、『法科大学院入試ガイド』、『大学&大学院.net』

◇資格取得・キャリアチェンジ・・・『稼げる資格』、『専門職が手に入る本』、『好きを仕事にする本』、『就活で見つからなかった仕事を手に入れる本』など

◇通信講座／通信制大学関連・・・『通信講座大事典』、『家で楽しく学ぶ通信講座の本』など

GCDF-Japanキャリア・カウンセラー／白百合女子大学非常勤講師



社会人 & 学生のための大学・大学院選び



創刊
対象

特徴

2000年（年一回刊行）

大学院・大学への進学を具体的に検討しはじめた社会人・および学部生
読者の年齢帯は20代~40代が中心だが
近年ミドル・シニアが増加中

実際に進学した社会人大学院や通信制
大学の社会人大学生・修了生の事例を
数多く取り上げていること。
創刊以来の累計は1000名を超える

←社会人学生へのインタビュー誌面

<インタビューの内容>

- ・ 大学・大学院への進学を考え始めたきっかけ、入学までの経緯
- ・ 学びはじめたことによる変化
「学生生活」の内容、学ぶ喜びと困難、学んだことで得られた将来ビジョンなど



社会人の学習実施に関わる特徴

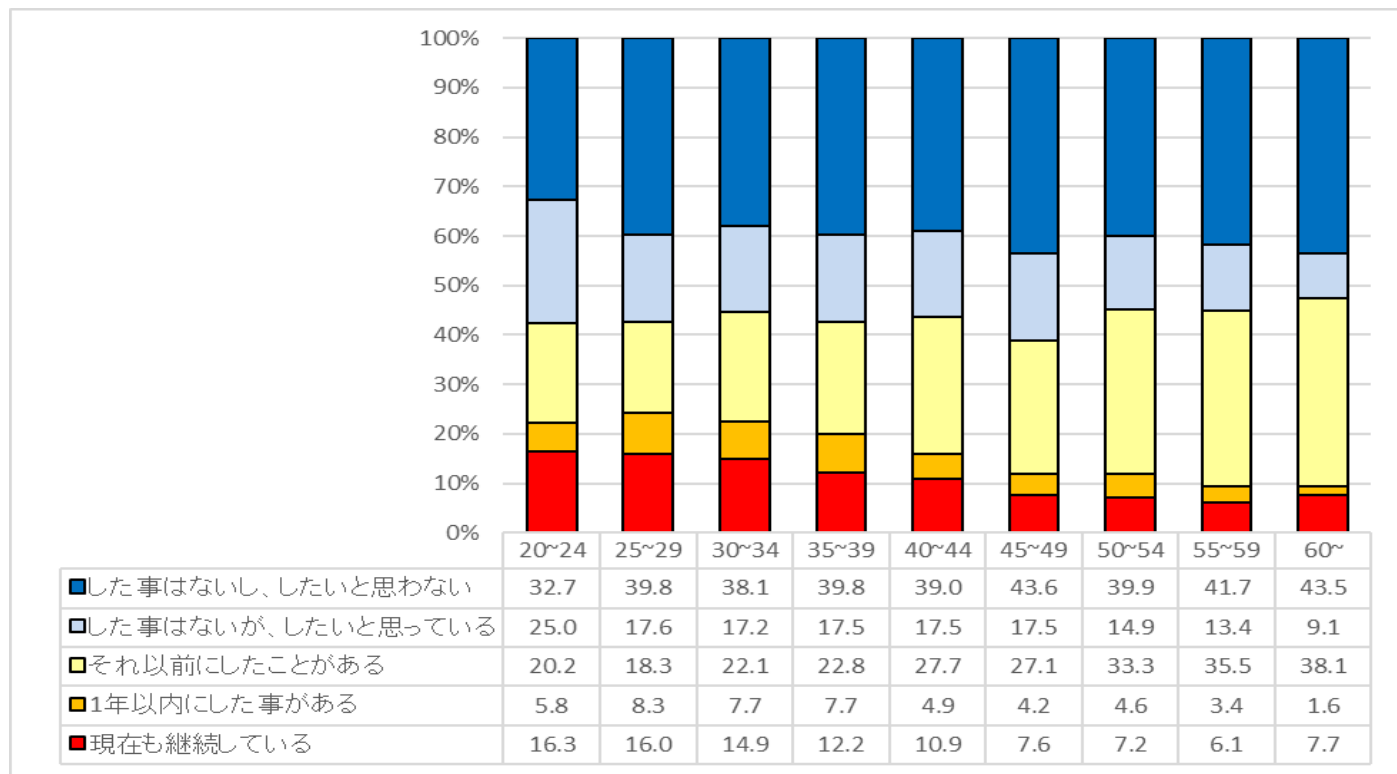
【前提】

社会人は
自らの意思と判断で、主に自らの費用負担によって
「学び」を実施＝学びという商材を購入する

※旅行・飲食・美容・ファッション等他の商材と競合する

- 学び事・習い事の実施者は、約 2 割
女性 > 男性、また若年者ほど実施率は高い
- 学びの「未経験率」は年齢が上がっても下がらない・・・
学ぶ人が学び続けている
- 自らの意志による「学び」経験のない人は、「学び」を実施しにくい
※また、一度何かを実施して「失敗した」と感じた人には
その折の印象を払拭してもらう必要がある

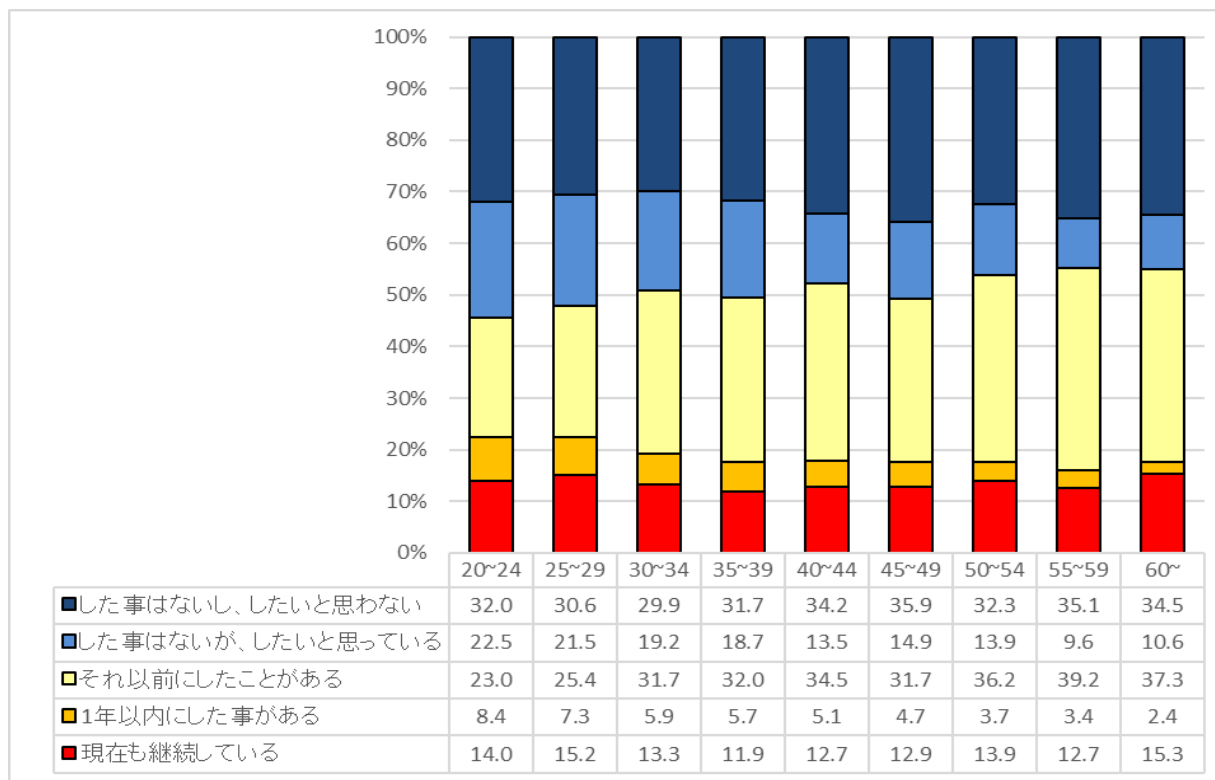
学習実施率／未経験率（男性・2017年 N=5024）



2017	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~
この一年間での学び事・習い事の実施率	22.1	24.3	22.6	19.9	15.9	11.8	11.8	9.5	9.3
学び事・習い事の未経験率	57.7	57.4	55.3	57.3	56.5	61.1	54.9	55.1	52.5

学び事・習い事（趣味系を含む）の実施率は、25～29歳をピークに漸減。「過去一度も実施していない」者は半数を超え、年齢が上がっても減少しない。

学習実施率／未経験率（女性・2017年 N=4976）



2017	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~
この一年間での学び事・習い事の実施率	22.5	22.5	19.2	17.6	17.8	17.5	17.6	16.1	17.6
学び事・習い事の未経験率	54.5	52.1	49.1	50.4	47.7	50.8	46.2	44.7	45.1

**学び実施率は、40歳以上は男性を上回り、年齢があがってもそれほど減少せず。
未経験率は男性より少なく、年齢があがると漸減する。**

出典：2017年12月実施 学び実態調査

全国の20～69歳男女有職者を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査 ※3月リリース予定

サンプル数N=60,000(男性30,000女性30,000)

学び事・習い事の非実施理由

- 非実施理由は大きく下記の4点
 - 1 費用・時間など、学習者側の制約条件
 - 2 立地・開講時間帯・内容など、学校側の「品揃え」不足
 - 3 やりたい講座に出会えない・探せない
 - 4 疲労・無関心などに打ち勝つ学習意欲を喚起できていない
- 単数回答で問題とされているのは
 - 1 **学習者側の制約条件（特に費用）**
 - 4 **学習者の学習意欲を喚起できていない**

← やりたい講座や関心のあるジャンルが見つかった場合は、時間の工面・学校探しのアクセスについてはかなりな程度解消できていると考えられる

↓

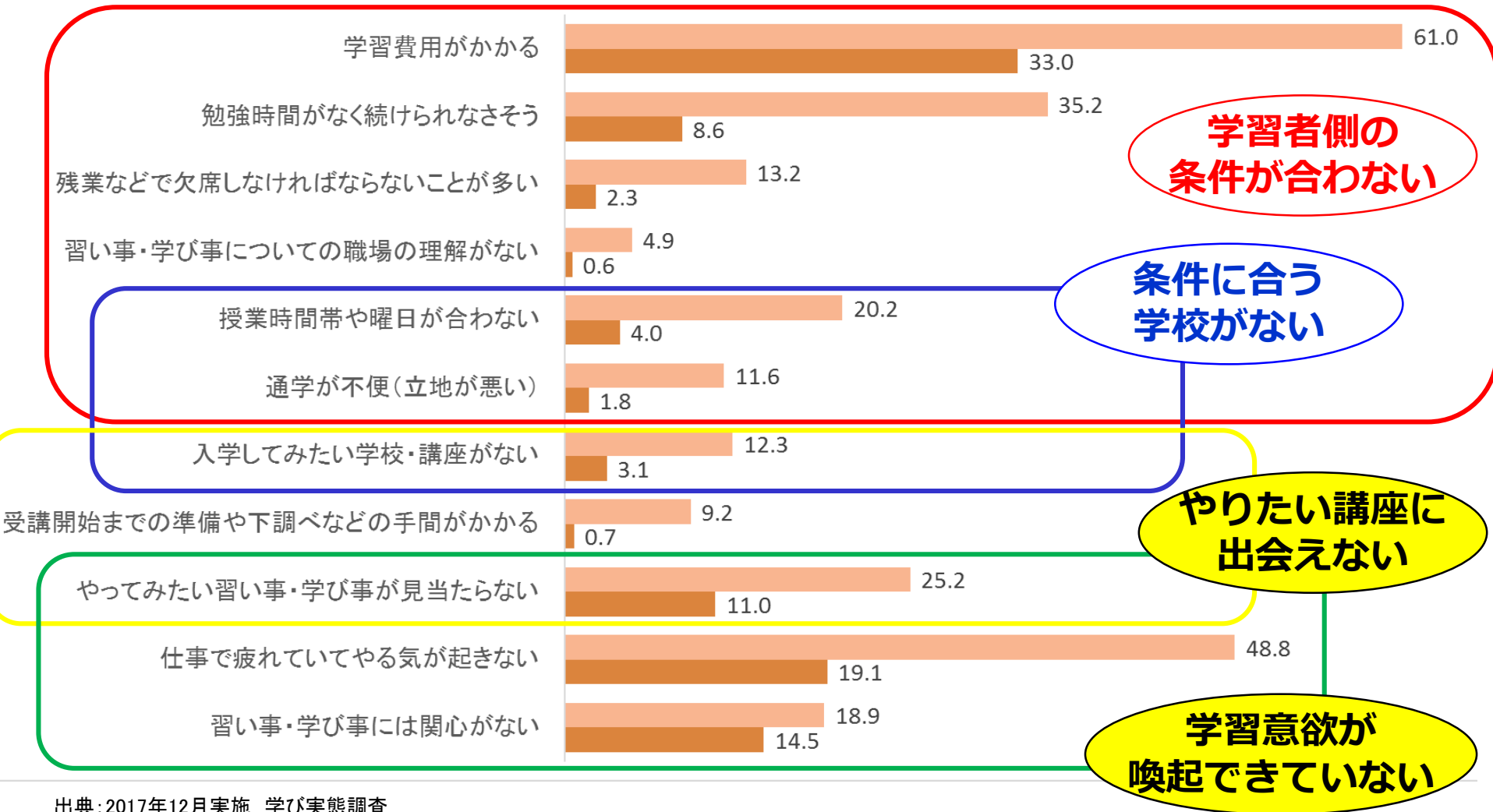
学び事・習い事の実施については、

- **講座発見後の「費用」の手当**
 - **「やってみたい」という学びに出会うための「意欲の喚起」**
- の2点が最重要

学び事・習い事の非実施理由

学び事・習い事を実施しない理由

各項目の上段・・複数回答（3つまで）／下段・・うち最も大きな理由 <単位%>

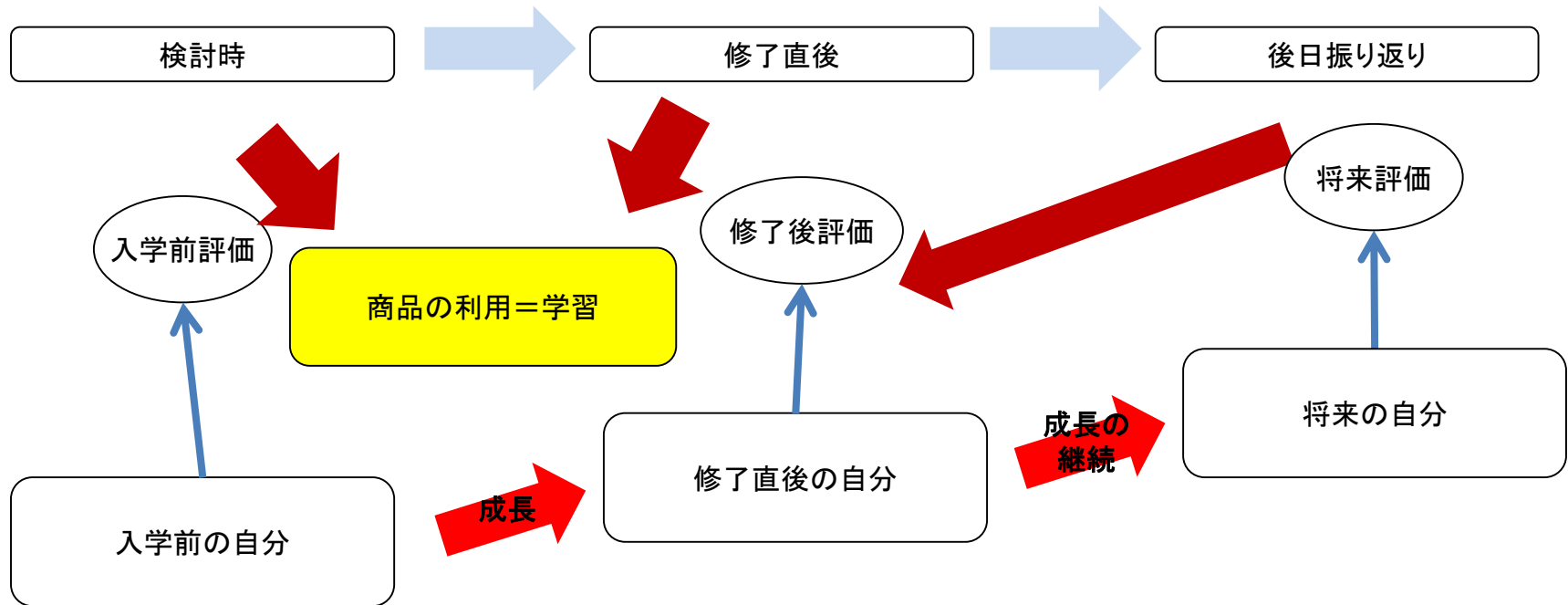


出典: 2017年12月実施 学び実態調査

全国の20~69歳男女有職者を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査 ※3月リリース予定
 サンプル数N=60,000(男性30,000女性30,000)

「学びという商品」へ喚起させる場合の課題

一般の商品の場合、購入前の価値観と、利用後の価値観は、基本変わらない。一方「学び」の場合、「購入」しているのは授業時間ではなく「自らの成長」。必然的に価値観は変化するため、商品購入前にその評価を行うことは原理的に難しい。
⇒ロールモデルに出会えば、評価が想像しやすくなる

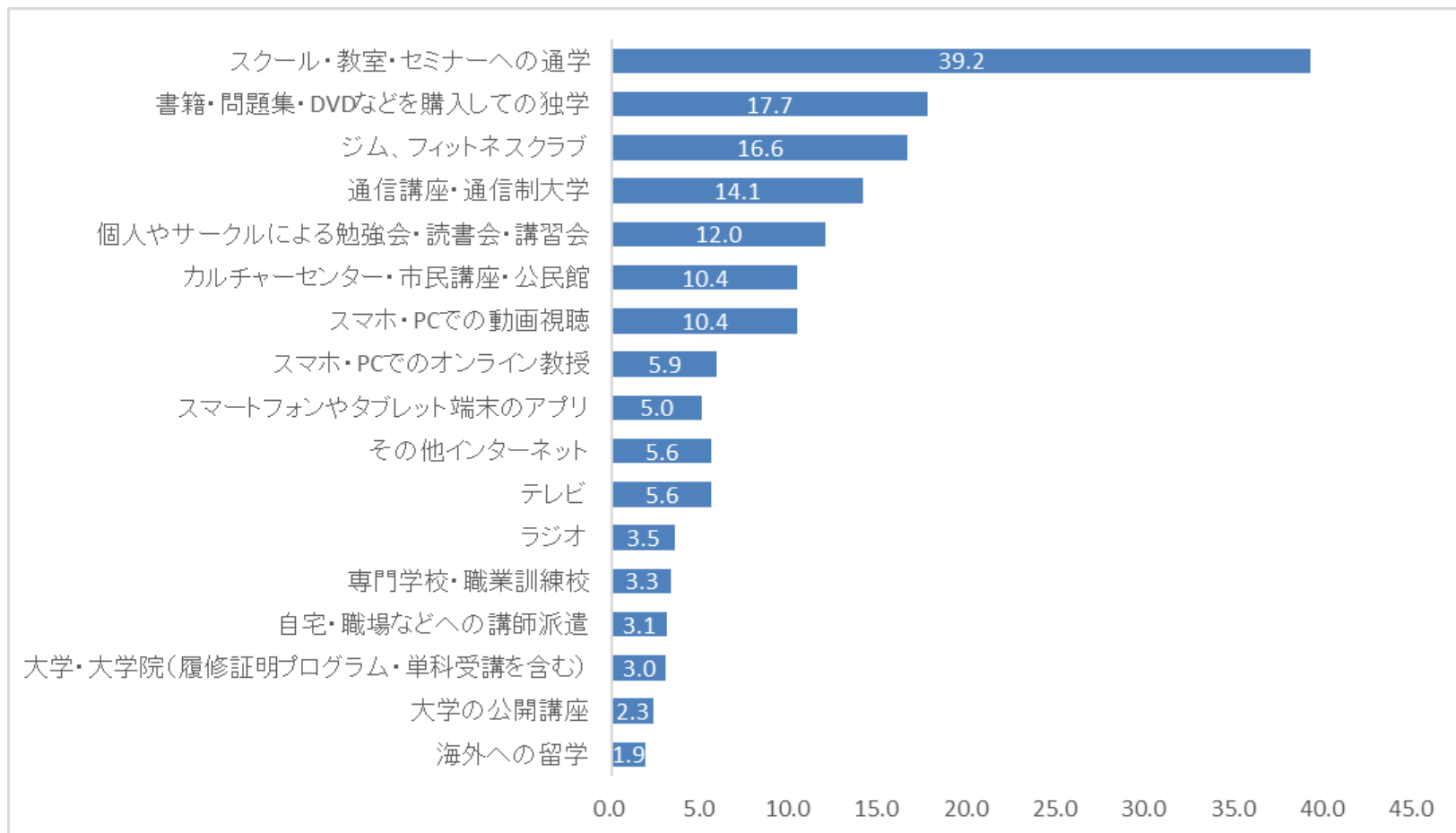


一般商材と異なり、学びの場合、
検討時に、「成長後の自分」を想像し、それによって検討しなければならない
→はじめて学ぶ人にとって、その困難はより大きい。
(学び続けているはそのイメージを描きやすい)
→資格という目標、および「**ロールモデル**」が重要な役割を果たす

学ぶ手段として、「大学・大学院」は決して一般的な手段ではない

大学の利用は、**学び実施者の3%**

この1年間で実施した（実施している）全ての習い事・学び事について伺います。
学んだ手段に該当するものを全て教えてください。



出典：2017年12月実施 学び実態調査

全国の20～69歳男女の「学び実施者」を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査 ※3月リリース予定

サンプル数N=3,107(男性1,555 女性1,554)

社会人学生は希少な存在

「大学を利用した経験のある社会人」は少ない

修士課程への自費入学者は年1万人以下
学習実施率×大学利用率 = 0.5%以下

そして、**学習実施者は「偏在」**

学ぶ人は学び続ける、
また学ぶ人の周りには学んだ人が数多く存在→
ほとんどの場所には、社会人学生は存在していない

さらに、大学や大学院で学んでいることは職場・友人に言わない傾向も。



社会人が「学ぼう」と考えても、

「社会人学生」のロールモデルに出会う機会は非常に小さい。

社会人のための制度の認知度

「学び事・習い事を実施した人」であっても、
 大学・大学院関連の制度内容は、
 放送大学を除き、あまり認知されていない。

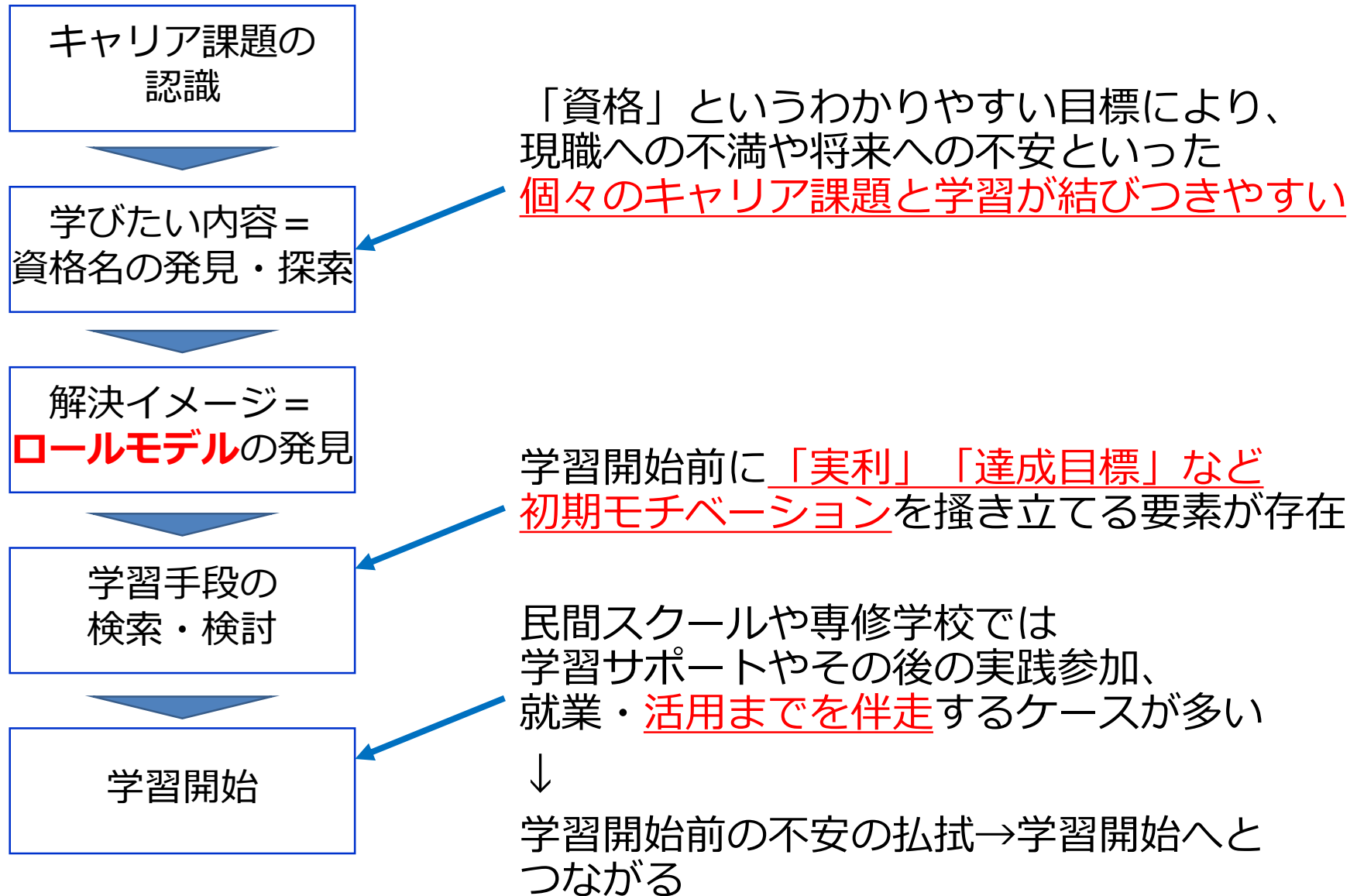
意味・内容まで知っている言葉 (%)	全体	男性			女性		
		20～34歳	35～49歳	50～69歳	20～34歳	35～49歳	50～69歳
リカレント教育	8.6	14.9	11.6	9.3	6.6	5.8	3.5
社会人の学び直し	18.0	24.3	20.8	20.1	14.5	13.7	14.7
教育訓練給付金	27.9	19.7	29.7	31.1	25.3	35.9	25.7
専門実践教育訓練給付金	7.1	9.5	11.2	8.1	4.6	5.6	3.5
求職者支援制度	12.5	12.2	14.9	12.4	13.5	12.9	9.3
専門職大学院	7.8	11.4	10.4	9.5	6.2	5.0	4.1
職業実践力育成プログラム	5.3	8.5	8.7	5.8	3.1	4.1	1.5
職業実践専門課程	3.9	6.2	6.2	5.6	2.9	1.2	1.2
専門職大学	6.2	8.9	9.3	6.8	5.6	4.2	2.5
科目等履修	9.3	11.8	8.9	8.5	10.8	8.1	7.7
履修証明プログラム	4.7	6.8	5.4	5.6	3.9	3.7	3.1
放送大学	29.0	22.4	33.8	39.4	16.8	27.0	34.4
JMOOC	3.0	4.6	5.4	4.1	1.5	1.2	1.4
この中に意味・内容まで知っている言葉はない	43.0	40.0	36.5	38.6	51.5	44.4	47.2

出典：2017年12月実施 学び実態調査

全国の20～69歳男女の「学び実施者」を対象にケイコとマナブが実施したインターネット調査 ※3月リリース予定

サンプル数N=3,107(男性1,555 女性1,554)

【参考】学習開始までの流れ～資格対策の勉強の場合



学習開始までの流れ～科目等履修・履修証明プログラムなどの場合

キャリア課題の
認識

誰を対象としたプログラムなのか、
また履修後・修了後のイメージが
具体的にわかる講座名・プログラム名の場合、
検索などでも発見されやすい

学びたい内容＝
資格名の発見・探索

職業指導や企業の教育担当に知られていない
ため難しいが、大学を利用した**ロールモデル**
と出会うことで学びの選択肢に入ってくる

解決イメージ＝
ロールモデルの発見

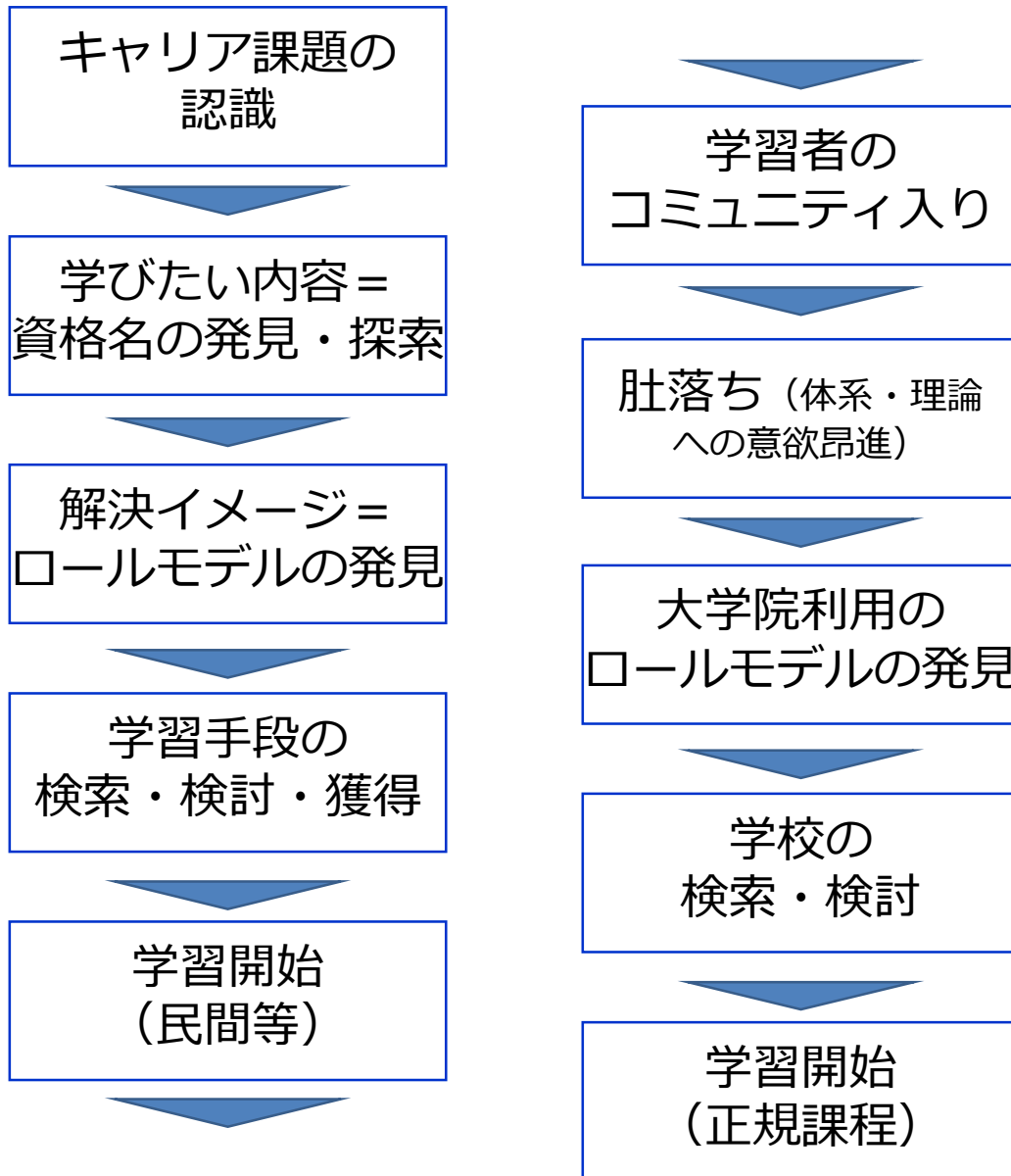
※ただし、大学のホームページは18歳・学部
の正規課程の広報用に最適化されており、社
会人向けプログラムについての情報は発見さ
れにくい。

学習手段の
検索・検討

今すでに学んでいる人は、学習習慣を持つ人、
学び慣れている人であることが多く、伴走者
がなくとも自ら主体的に学習を開始している

学習開始

学習開始までの流れ～社会人大学院の場合



大学院の場合、
学習開始までの工程が長くなることが多い

(例えば)

キャリア課題に直結するものを学習する過程で・・・



「学習者のコミュニティ」に入り・・・



コミュニティ内でロールモデルを発見



学び進めるうえで体系化・理論化への意欲が高まり、具体的な検討へ。

学習開始までの流れ～社会人大学院の場合

この時点では
書籍購入を含む
他の選択肢と
並行検討

↓
現状、特定の資格を除き、大学院は選択肢にあがってきていない

キャリア課題の
認識

学びたい内容＝
資格名の発見・探索

解決イメージ＝
ロールモデルの発見

学習手段の
検索・検討・獲得

学習開始
(民間等)

学習者の
コミュニティ入り

肚落ち (体系・理論
への意欲昂進)

大学院利用の
ロールモデルの発見

学校の
検索・検討

学習開始
(正規課程)

ロールモデルと
出会う機会は
希少

↓
大学院の検討に
至るには、セミ
ナーや履修証明
など他のプログ
ラムからのトス
アップが有効

【まとめ】社会人の学び検討過程における、大学・大学院の課題

- **大学・大学院には、学習実施に至るまでに重要な「喚起」の機会が少ない**
 - 民間スクールや通信講座では、「資格」などわかりやすい喚起により検討へと誘導
 - 「大卒学位」「臨床心理士」「税理士」など一部を除き、大学・大学院の正規課程に、社会人にとってわかりやすい喚起誘因は少ない
 - 社会人学生は希少なため、**「ロールモデル」と出会う機会が少ない**
 - キャリアコンサルタントや企業人事などキャリア支援者に大学のプログラムが知られていない→案内されない
- 学習者の関心のある「テーマ」= **学習者のキャリア課題にピンポイントで答える学習機会がまだまだ少ない**
 - 履修証明プログラムの数・バリエーションともに、また地域的にも限定的。
- **社会人向けの各種プログラムが発見されにくい**
 - 大学全体のホームページが18歳向けになっており「階層が深い」
 - **各プログラムが対象とする者や修了後イメージがわかりにくい**ことが多い
 - 各学部・研究科が実施する**単発セミナーなどの広報範囲が限定**されている
 - 特に大学院では、自分が学びたい内容が学べるかどうか、研究科名からは直接類推しにくい→学外のコミュニティ内で情報共有が進むような発信が必要
→社会人向けに広報を行う人的リソースが非常に小さい

アクセス面での課題解決のために

学ぼうとしている人に、大学の持つコンテンツを学びの選択肢に入れてもらうために考えられる施策案

- 各の**大学から発信する情報の改善**
 - 各プログラムの対象者・修了後イメージの明確化（単発セミナーを含む）
 - プログラム名称への「資格名」などの冠の付与
 - ホームページの改善／各学部・研究科・研究室が持つ、社会人を対象とした情報の一元化と最新化
 - ロールモデルに触れる機会（リアル・Web上ともに）の増強
 - 広報のための人的リソースの拡充
- **社会人がテーマに即しピンポイントで学べる機会のさらなる拡充**
 - 単発セミナーや研究発表会など、一日～数日で学習内容に触れることができる機会の増設
- **社会人のキャリア支援を行う部門（公的機関・企業人事）への情報提供**
 - キャリアコンサルタントへの学習支援知識の装着
 - ハローワークや自治体、商工会議所や企業人事などキャリア支援者へのB P等大学の社会人向けプログラム情報の提供
 - 企業にとっての専門実践給付金制度のメリットの周知
- 学習内容が関連している**民間教育機関との連携**
 - 関連の資格講座・団体やビジネスセミナーなどとの相互情報提供、および学習体系内への取り込み